

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム喜 ユニット1		
所在地	旭川市高砂台8丁目 3番10号		
自己評価作成日	平成30年8月20日(月)	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0172901514-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の介護理念(自立、笑顔、思いやり、尊敬)に基づき、家庭的な環境のもとで、共に寄り添い、穏やかで安心した、張りのある生活が送れる様、努めています。施設の行事や、ご家族が面会に来られた時は、ゆっくりと過ごして頂ける様、環境作りにも配慮しています。
また、運営推進会議の皆様の意見を参考にしながら、地域の方との交流を大切にしています。加齢により大小の病気を抱えている入居者様達が、苦痛なく暮らし頂ける様、体調管理やケアを行っています。また、重度化した時のご本人とご家族の希望には、出来る限りお答えする事も努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市南西部の小高い丘陵地にあり、すぐ近くには古くから市民の憩いの温泉と呼ばれた高砂温泉があり、誰もが親しみを抱いている地域に立地している。建物は旅館を改装した造りで、各部屋とも10畳を超える広い個室となっており、また窓も大きく、見える風景の豊かさを大切にしている事が感じられる。当事業所の優秀な点は、まず最初に立地の景観を余すことなく引き出し、十分に堪能させる工夫に着目したい。事業所から見渡す位置に地元町内会は広がっているが、春には桜やツツジの花々が眼下を埋め尽くす様が一望でき、四季の移り変わりがすぐ目の前で展開されるという、自然の移ろいを生活の大事な要素として提供している事を高く評価したい。第二点目は近隣で運営されている7つの認知症共同住居事業所の連携した活動を取り上げたい。同一生活圏内で運営されている母体も法人も異なる7事業体が2ヶ月毎に連絡会を開催し、職員の研修や待機利用者の紹介、また認知症カフェの「ほっこりカフェ」や認知症の利用者が主となった「手作りレストラン」等々を交代で主催し、地域活動の一端を単独で、また集団で担っている。地域で積極的に活動している当事業所に今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念に基づき、地域の皆様との交流を、職員一丸となって取り組んでいる。	理念は利用者、家族、職員等の誰でもが目につくように事務所内に掲示し、日々の実践で活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会や地域の行事にも積極的に参加している。	町内会に参加し、班長や婦人部の役職を担っていたこともあり、積極的に関わっている。また皆が集う「ほっこりカフェ」や利用者が店員を務める「手作りレストラン」も地域活動として随時開催し、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて参加者の意見を取り入れて、施設の運営に反映する様、努めている。	町内会の各役員や行政、近隣のグループホーム職員等の参加を得て、2ヶ月毎に定期開催しており、議事内容も行事報告から避難経路の問題点、拘束廃止に向けた取り組みと多岐にわたり、サービス向上に繋げている。	推進会議に家族参加が少なく、参加に向けた働きかけが不可欠であり、今後については毎回、議事録を家族宅に送付し、推進会議の必要性とその意義について、理解を求める取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署とは常に連帯を密にし、介護高齢課の担当者には運営推進委員として参加を頂いており情報交換を行っている。	行政の窓口とは、実施指導や集団指導、各種会議で情報交換を密に行っており、また包括センターを中心に地域連携で2ヶ月毎に会議を続けるなど、協力関係は維持継続されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、入所時に家族との話し合いで合意を頂いている。その他は、身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している。	身体拘束や抑制は、マニュアルと定期的研修会で不適切な事項として管理者から職員まで十分に理解しているが、3条件のもと必要性が出た場合、身体拘束廃止委員会で論議記録し、運営推進会議で経緯と経過を報告するなど、拘束廃止に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに、情報、防止に努めている。特に言葉遣いによる虐待。研修や勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会へ参加させて頂いた事を参考にし、身上監護や財産管理には注意を払っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学及び契約時に、契約書及び重要事項に基づき詳しく説明し、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、その時々に応じて、意見や要望を頂いている。	家族の訪問時に意見や要望をお聞きし、職員間で検討してその意向に応じている。評価機関の家族アンケートも参考にお聞きしながら、利用者や家族の意見の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度の職員会議、又は、その都度職員と管理者が話し合いを行い反映している。結論の出ない事柄については、本部判断として反映に努めている。	月に1度の職員会議や、毎日の申し送りの時を利用して提案や意見を聞き取り、介護の見直しや方法について論議・検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部と連携し、資格の習得に向けて、情報提供等の配慮を行っている。又、勤務体制変更等にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会へ積極的に参加できるよう、配慮に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神居地区のグループホーム研究会、又は、複数事業所との合同の研修を受講し、意見交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を知る事により、コミュニケーションを取り、要望や不安な事を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族との信頼関係を築くため、利用者様の情報を伝え要望を聞き、早期に対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントを行い、必要とする支援を職員、家族と話し合い対応を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合いを意識し、信頼関係を築く事を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、利用者様と家族の交流が出来るような関係を築ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、冠婚葬祭への出席についても参加できる様に配慮しています。	利用者は市内の各所からであり、馴染みの場への支援は家族の協力を得ながら行なっている。冠婚葬祭への出席もあり、馴染みの関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が把握して、利用者様同士が気楽に話し合えるように配慮している。(レクリエーションや談話室の利用)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族であっても、希望者には施設の行事へ参加を呼び掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず、思いや意向を把握し、意思疎通が困難な時は家族からの情報提供を頂いている。	一人ひとりを日々、支援するなかから、好き嫌いや望む事、好む事を理解し、職員全員で共有している。本人本位の安らかな生活を送れるように、共有した意向を活かしながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより、家族からも情報の提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況、個々のリズムを把握して、関係者から聞き取りを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、職員会議などで打ち合わせをして、家族の意向を聞き入れ話し合い、現状に即して計画作成をしている。	介護計画は本人や家族の意向を中心に作られ、短期目標の進捗度が毎日把握できる様に介護日誌に記録されており、現状に対応した計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、個人のファイルに記録を記入し、申し送りで報告し、情報の共有を図り、実践、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の意向を確認しながら、サービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活環境を有効に生かして、安心、安全に日常生活を送れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から病気や主治医との関わりを密に相談できる関係作りに努めています。特に医師から直接、治療方針を得て、本人の回復に努めている。	かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重して継続され、職員が同行して通院している。状況により往診や訪看も可能であり、また常勤の看護師も即応体制であり、安全で安心の医療体制で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医等とホームの看護職員が連携して、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院職員との関わりは良好で相談できる状況にある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に十分に話し合いを行っており、施設で出来る範囲を確認している。又、家族が希望すれば、医師、家族、施設で話し合い、終末医療対応も可能である。	看取り介護は医療面を含め、限界がある旨を入居時に説明し同意を得ている。最終的な搬送先は医師と事業所とで家族の希望を含め検討している。本人と家族の意向により、ぎりぎりまで介護した経験もあり、今後も職員の研修を重ねながら、チームでの支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や、職場内外研修を行い、知識の取得に努め、万が一に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害の避難訓練を年2回実施し、対応できる体制作りにも努めている。運営推進会議等、地域にも、協力体制をお願いしている。	災害訓練は火災想定で年に2回、消防署の指導で実施している。避難先は各種災害で異なる為、本部と協議している。	冬季、特に厳寒期の災害に備えて、電源を必要としない暖房器材を用意し、不意の災害に備えるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取りあえる関係作りに努め、特に利用者様、ご家族の話を聞き尊重している。	利用者ひとり一人の個性を尊重し、声掛けやお願い、誘導等を行っている。トイレやお風呂へのお誘いも状況を踏まえて、礼を失さない様に支援に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様と信頼関係を築き、お互いにコミュニケーションを取り、希望を理解できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の視点に立った介護を心がけている。利用者様の希望、要望を聞き、本人のペースで生活出来るように介護している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿った身だしなみを心掛けている。月に1回訪問理容を利用し、配慮している。化粧品他、の購入も家族と相談しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を利用したり、調理しながら、季節感を十分に味わって頂けるよう努めている。食事の色合いにも気をつけている。	管理栄養士による献立で、旬の食材が栄養のバランス良く調理され、満足度の高い食事となっている。家族のアンケート調査にも「食事が美味しい」と評価されており、職員も同席し、一体になった楽しい食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士が献立を作成。栄養のバランスに気をつけている。1日の食事量や水分摂取量について、個人チェック表に記載。必要に応じて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施し、常に汚れや臭いが無い様に支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを知ることにより、トイレで排泄がスムーズに出来るようにする。自立排泄に向けた努力を行っている。	排泄はトイレで行うを基本としており、時間での声掛けや排泄サインを見落とさずに適切に誘導し、本人が混乱することのないよう、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないような献立を栄養士が作成。日中は適度な運動(散歩等)を行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが、体調や気温、通院状態等に応じて考慮している。	週に2回、火曜日と金曜日を入浴日として取り組んでおり、その日以外は必要に応じて清拭やシャワーにて対応し、無理強いすることのない楽しいお風呂になるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握して、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服薬状況を共有し、直接口に入れて、完全に服薬した事の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でそれを活用し、お手伝いや遊び、レクリエーション等に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に施設周辺の散歩や、近所の公園にも出掛けている。又、利用者様の希望により近所の商店へ買い物に出掛けたりもしている。	外出レクとしては別に定めずに、天候や気温等の状況に応じて、近所を散歩や散策したりと外気浴に出かけている。家族の協力も得ながら、買い物や外食にも出かけ、戸外への希望に沿えるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら買い物して頂けるように支援を行っている。出来ない方には職員がお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの手紙を渡している。又、電話等の依頼があれば外部との連絡が出来るように、お手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの展望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる。食堂や娯楽室は利用者同士の交流の場として、安心して過ごして頂けるように工夫している。	当事業所は旅館を改築しており、景色が一望できる絶好の高台に位置し、居間や食堂から市内や大雪山系の景観が四季折々、一年中楽しめるように窓を大きく設け、みんなで楽しめる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、喫煙室、談話室を活用して、気分転換が出来るように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し、自分なりに好きなように家具を配置したりして、居心地のいい空間作りをしている。	各居室はいずれも広いスペースとなっており、また壁のほぼ前面がガラス戸の部屋もあり、窓から見える景観を楽しんでもらう工夫が感じられる。また各部屋には馴染みの家財、仏壇等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、自由に安全に行動出来るように配慮している。フラットで無駄なものを廊下に置かず、安全に配慮している。		